

# 第一回全国高等学校情報教育研究大会の報告

東京都立墨田川高等学校教諭  
清水 紀行

## 1. 大会の概要

人，人，人……。分科会の会場となった7号館はたくさんの人で溢れていた。そしてそのほとんどはおもに高校の情報科教員なのだ。北は北海道から南は沖縄まで、予定250名のところ301名の参加者(企業参加者約50名，大学や専門学校の教員若干名，手伝いの学生9名を含む)となり，会場は熱気に包まれていた。

2008年8月22日，東京は世田谷の閑静な住宅街にある武蔵工業大学(来年度より東京都市大学)世田谷キャンパスにて，初の全国高等学校情報教育研究大会が行われた。これは全国の小中高等学校情報教育関係者，情報教育関係研究会の会員，情報教育に携わる研究者，および大学生・大学院生等を対象にした高等学校「情報科」の大会である。大会テーマは「Next Stage - 新たに広がるネットワークの構築 - 」であり，全国での実践の発表の場であると共に，次期学習指導要領においても必修であることが確定した教科・情報の更なる飛躍の意味が込められている。

今回は第一回ということで実行委員会形式で行った。都道府県それぞれの情報教育研究会が，できるところを無理なく分担しての運営であり，多くのボランティアに支えられた。ボランティアといえば会場となった武蔵工業大学には全面的にお世話になった。特に同大学の小池情報デザイン研究室には，「情報デザイン」の成果として，会場全体のデザイン，案内板，大会ロゴ，リーフレット，Webサイト，当日の案内等々すべて請け負っていただき，多大なご協力をいただいた。学生達は夏休み返上で準備に当たってくれたとのこと。実行委員の一人としてこの場を借りて御礼申し上げる。

## 2. 基調講演や分科会などの概要

大会の主な内容は，基調講演・分科会・ポスターセッション・企業展示である。

基調講演には文部科学省初等中等教育参事官 斎藤尚樹先生を迎え，「新しい学習指導要領と情報教育」と題して1時間ご講演をいただいた。

分科会は5会場それぞれ5つ，計25，さまざまな都道府県からの活発な発表があった(図1)。

私が参加した分科会の一つめは，横浜デジタルアーツ専門学校の浅野智氏，日本学園中学・高等学校の磯崎喜則氏による発表「情報デザイン教育の提案 - 専門学校教育の事例から - 」。情報は相手の立場になって分かりやすいものを作成する必要があるという考えから，「人間中心設計プロセス」，「ペルソナ/シナリオ法」を紹介し，情報デザイン教育を高校も導入してはどうかという提案だった。特に興味深かったのはペルソナ法である。商品開発の際，万人に合わせて多機能にすることでかえって分かりにくくなることを避けるために，ターゲットとなる対象として特定の個人(名前，年齢，性別，趣味，特技，家族構成，……)を挙げて，この人が喜ぶ商品を作るようにするという手法である。情報発信を考える上での一つの手法として取り入れてみたいと感じた。

また，沖縄県立総合教育センターの川満裕史氏の発表「沖縄県立IT教育センターの取り組みから」にも参加した。内容は，各学校や教員に対する県のサポート体制，教育情報共有システムによるコンテンツ共有などの紹介。このコンテンツのほとんどは県外からも利用できるようだ。沖縄はとて



図1 分科会の様子

も進んでいることを実感した。特に島は「加工品の産業がないので情報で」という状況があり、マイナス面をプラスに変えるたくましさを感じた。

私も本校の椋本と「行事における現場取材を取り入れた情報活用能力の育成」と題して発表した。教室にとどまらず、フィールドワークによる一次情報の収集を取り入れた授業の提案だった。情報の収集・加工・発信の過程における最初の「収集」は、教室内授業ではインターネット上のものや相互インタビューという情報源に偏ってしまう。しかし、一次情報の大切さを感じてもらうためには、それだけでは不十分である。そこで、遠足や修学旅行といった学校行事を情報の授業に取り込んでしまい、現場での取材(それは人への取材というだけではなく、現地に行く、現物を見るという肌で感じる情報)を通じて情報活用能力を育成していくことを提案した。内容について忌憚ないご意見・ご批判等をお待ちしている。

ポスターセッションは分科会の時間と重ならない時間に設定しており、11人(組)の発表が行われた。大勢やってくる人たちに向かって、模造紙などに書いた「ポスター」を使って説明をする(図2)。分科会と違って、かっちりとした発表時間が決まっているわけでもなく、聴衆も立ち見である。また気軽に質問したいときに口を挟んで質問することができる。言わば「学会のフリーマーケット」である。目前の真剣な発表者の話に吸い寄せられる。こういってはなんだが、一種の大道芸的な面白さがある。発表の時間でなくてもポスターが張り出しているため、分科会の途中でも気軽に読みに行ける利点もある。

その他、分科会やポスターセッションにおいてどのような発表があったのかは、公式サイトでご確認いただければと思う。

### 3. 大会全体の感想

大会全体の私の感想として、いままでやってきた都道府県ごとの研究会やワークショップなどに比べ、ずいぶん教科・情報の「内容」の方にシフトしてきたと思う。これまでは、コンピュータ活用の上での技術的な発表やシステム紹介の割合が多かった。環境が整ったのか、環境に依存しない内容になったのかはわからないが、今大会の発表は、



図2 ポスターセッションの様子

普遍的でより情報科教育の本質的なテーマが多かった。また、「情報デザイン」が一つの重要なキーワードであったように思う。発表にも多かったのと、この言葉に惹かれて全国からの参加者が集ったようにも思える。301名の参加は大成功であったといえる。また、みんながムリのない形で企画・運営したことが成功に繋がったと思う。

### 4. 今後の大会に向けて

大会終了後、同大学の食堂で行われた懇親会に100名を超える参加者があった。和やかな雰囲気の中で、お互いに感想を述べ合ったりして交流を深めていた。この繋がりがこそが大会のテーマである「新たに広がるネットワークの構築」ではないかと思う。次回に繋がる有意義なひとときであった。

今回の参加者は25都道府県にわたったが、「全国大会がある」ということが伝わり切らなかった部分があるかも知れない。手弁当の大会であり限界もあろうかと思われるが、より積極的な広報活動が必要であろう。

また、大会に先立ち行われた総会において、情報科の全国組織が設立された。これをきっかけとして全国レベルでの活発な情報交換や交流が期待される。次回は来年の8月24日(月)に茨城で行われることが決定した。今年の大会で互いに刺激をしあったのを受け、更に広がりや深さを持った発表が増えることを期待したい。

#### 参考URL

- 1) 全国高等学校情報教育研究大会サイト  
<http://kanto-joho.net/all-japan/>  
<http://www.yc.musashi-tech.ac.jp/~design/nextstage/>
- 2) 武蔵工業大学  
<http://www.musashi-tech.ac.jp/>